Z-①　改訂2-2

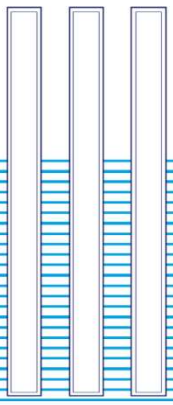
FULL HEIGHT DOOR®

フルハイトドア®

施工手順書

ウォールスルー

ウォールスルー



kamiya

作成：2013年6月1日
更新：2023年8月1日

施工を担当される方へ

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

○ 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
○ 高温･高湿の環境条件では使用できません。
○ 枠･下地枠の取付は、水平･垂直･ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
○ 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ･破損･色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
○ 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。

●ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

○ 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
○ 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。

● 施工前及び施工時の確認

○ 本製品は内装扉を用途とする商品です。
他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は
当社では責任を負いかねます。
○ 施工前に部材の数量･キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
○ 部材を保管する場合は湿気･直射日光を避け、十分な養生をしてください。
○ 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
○ 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
○ 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。

● 施工後の処理

○ お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
○ 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
○ 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
○ 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

Ikamiya
Full Height Door

□ウォールスルー

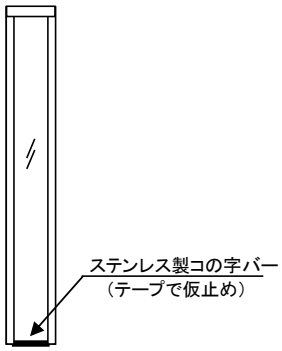
改訂:2023/8

■ 製品及び同梱内容の確認

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

造作材

部材	数量	備考
ウォールスルー	1セット	ガラスは組込み済み ※ガラス下部のステンレス製コの字バーはテープで仮止め



※ガラスの交換はできません。

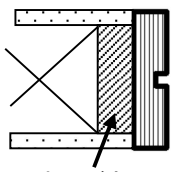
同梱部品

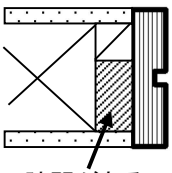
□ウォールスルー

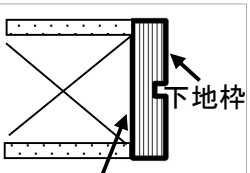
改訂:2023/8

1 施工前の確認事項

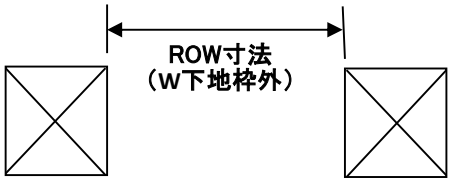
① ウォールスルーを設置する前に、開口部の巾(図面:ROW寸法)と、高さ(図面:床仕上～開口高さ)、及び床仕上げの厚みを確認してください。
※ウォールスルーの設置は、ガラス下部のコの字バーが床仕上げ面より下に納まりますので床仕上げ材(フローリング)の施工前に行ってください。







×	×	○	



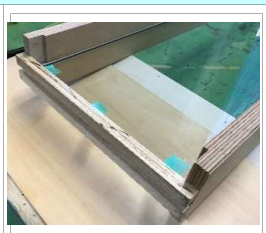
開口の確認

注意

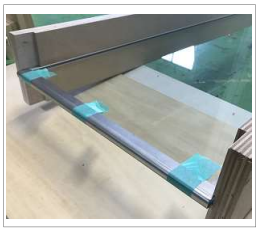
※ウォールスルーは躯体と面接合するように取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。
※ウォールスルーのガラスは交換できません。

2 ウォールスルーの設置・固定方法

① ウォールスルーの設置前にガラス下部のコの字バーを保護している木材を取り外します。
※ウォールスルーの設置は床仕上げ材(フローリング)の施工前に行ってください。



ガラス下部のコの字バーは木材で保護され納品



ガラス下部のコの字バーはテープで仮止めされてます

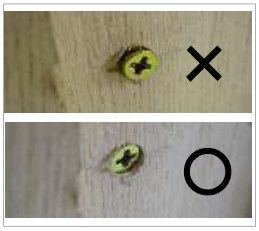
縦枠の下端が床仕上げ面　**※ガラス下部のコの字バーは床仕上げ面より下に納まる**

※ガラス下部のコの字バーは縦枠より出っ張ってますので取扱いに注意してください。

② ウォールスルーの設置前に縦枠の下に床仕上げ材と同じ厚みのパッキン材(現場手配品)を仮置きし、ウォールスルーを載せ、酢ビ系接着剤併用にて取り付けビス(現場手配品)で躯体に固定してください。（下穴が開いていませんので、必ず下穴をあけてから取り付けてください）

下地裏面に接着剤全面塗布

縦枠の下に床仕上げ材と同厚のパッキンを仮置きし、ウォールスルーをパッキン材の上に載せビスで固定



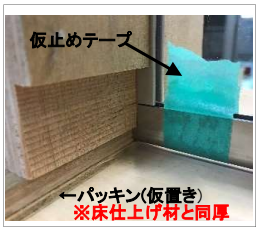
ビス固定の方法

注意

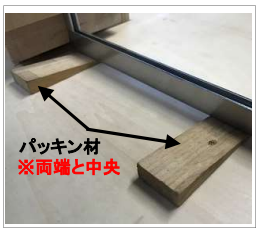
※ウォールスルーの設置は床仕上げ材(フローリング)の施工前に行ってください。
※縦枠の下端が床仕上げ面となります(後から施工する床仕上げ材が差し込めるようにしてください)。
※ウォールスルーを設置する際、パッキン材(仮置き)の上にガラス下部のコの字バーが載らないようにしてください(コの字バーが床仕上げ面より下に納まります)。
※ウォールスルーの取り付けビスはガラスをまたいで2列、300mmピッチ程度で固定してください。
※ウォールスルーの取り付けの際はガラス下部のコの字バーを仮止めしているテープは剥がさないでください。

3 ガラス下部のコの字バーを固定し、床仕上げ材を取付ける

① ウォールスルーの固定後、縦枠の下に仮置きしたパッキン材を取り外します。
次にコの字バーが下にズレ落ちないようにパッキン材を3箇所(両端と中央)、コの字バーの下にしっかり入れてください。

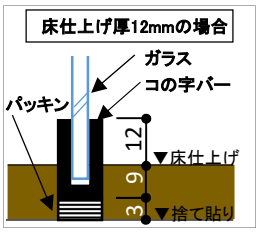


縦枠下端に仮置きしたパッキン材を抜く



コの字バーの下にパッキン材を入れ仮止めテープを剥す

コの字バーの側面からパッキン材がはみ出さないよう切る



下記「注意」参照

② コの字バーを挟み込むように床仕上げ材を取り付けます。

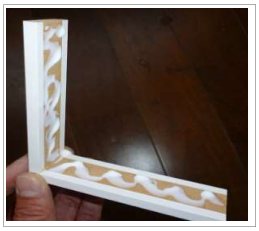
コの字バーを挟み込むように床仕上げ材を取付ける

注意

※コの字バーは床の捨て貼り面から浮いて設置されますので下にズレ落ちないようにパッキン材をしっかり入れてください。
※コの字バーの下に挿入するパッキン材の厚みは床仕上げ材(フローリング)の厚みにより異なります。
参考；床仕上げ厚12mmの場合：パッキンの厚み3mm、床仕上げ厚15mmの場合：6mm
但し、床捨て貼り面の不陸が大きい場合は現場にてパッキンの厚みを調整してください。

4 巾木・クロス施工

① 巾木に接着剤を塗布し、縦枠下端の巾木切欠き加工部と壁面にまわして取り付けてください。（接着剤は酢ビ系をお勧めします）

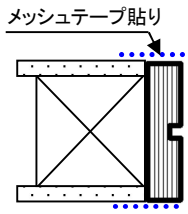


接着剤全面塗布

縦枠下端の巾木切欠き加工部
深さ7mm(クロスの場合)

シンプル巾木の取り付け

② 石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼り、パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。（メッシュ＋下塗り＋上塗りを推奨）
クロスは、ガラス押え部分(アルミ調見切材)で見切ってください。（ガラス押えの出寸法3mm）



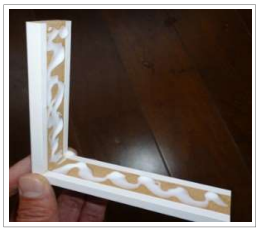
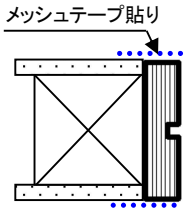
メッシュテープ

ビス部分にもパテ処理

注意

※縦枠下端の巾木切欠き加工寸法は別途当社で販売しているシンプル巾木用の寸法となります(クロス仕様の場合：高さ30mm×深さ7mm)。
※縦枠下端の巾木切欠き加工を無しにできます。ご注文の際に別途ご指定ください。

5 巾木・塗り壁施工

① 巾木に接着剤を塗布し、縦枠下端の巾木切欠き加工部と壁面にまわして取り付けてください。（接着剤は酢ビ系をお勧めします）				
	接着剤全面塗布	縦枠下端の巾木切欠き加工部 **深さ4mm(塗り壁の場合)**	シンプル巾木の取り付け	
② ガラス・コの字バー・巾木に養生を行い、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼り、パテ処理(2度塗りを推奨)をしてください。パテが乾燥後、下塗り材(アク止め入り)をムラなく塗り、1～２日乾燥させてください。その後、仕上げ材をムラなく塗り、３～４日乾燥させてください。				
	メッシュテープ	ビス部分にもパテ処理		

注意

※縦枠下端の巾木切欠き加工寸法は別途当社で販売しているシンプル巾木用の寸法となります(塗り壁仕様の場合：高さ30mm×深さ4mm)。
※縦枠下端の巾木切欠き加工を無しにできます。ご注文の際に別途ご指定ください。
※塗り壁は、ガラス押え部分(アルミ調見切材)で見切ってください。但し、ガラス押えの出寸法が3mmのため塗り厚は3mm以下としてください。
※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう１回塗って、1～２日乾燥させた後に上塗りを行ってください。